令和8年度　第1回恵庭市自殺対策ネットワーク会議　会議録

日　時　：　令和8年8月5日(水) 14時00分～15時00分
場　所　：　えにあす2階 会議室8
出　席　：(　委員　) 大久保委員、辻委員、南川委員、浜本委員、大川委員、田中委員、益田委員、嶋本委員
長政委員(代)、中川委員、三上委員、駒宮委員、石田委員、若井委員、森下委員

(　事務局　)足立保健福祉部長、池田保健ｾﾝﾀｰ長、須貝保健課長、庄林健康推進･こころ担当主査、大関
欠　席　：(　委員　) 早坂委員、小野澤委員、井上委員、尾谷委員
傍　聴　：　1名

1. 開会
保健センター長より、会議の出席は委員総数19名中15名であり、委員の半数以上の出席があり成立していることを報告。本会議が恵庭市自殺対策ネットワーク会議設置要綱の規定により、公開となっていることを説明。

2. 副市長挨拶

3. 議事
会長の進行により、以下のとおり議事を審議。

(1)「いのち支える恵庭市自殺対策計画」について(別紙資料 P1～事務局より説明(須貝課長)

(2)恵庭市における自殺の状況 (別紙資料 P3～14)　　事務局より説明(庄林主査)

(3)グループワーク
1)3グループに分かれ以下の項目について意見交換
①各機関における令和7年度実績の共有(別紙資料 P31～40)
②今後の課題と感じていること
③他機関と取り組みたいこと

2)各グループからの意見
①グループ
・SOSが出た時、相談があった時などどのようなタイミングで介入・支援すべきか見極めが課題。
・自殺につながるような兆候など判断が難しいため、そういった情報があれば関りやすくなる。
・子どもがAIに相談するケースもあり、AIの情報が正しいのかどうかを判断することも必要だと思う。
・他機関との連携というところでは、気軽に電話相談からしてもらいたいという意見があった。
②グループ
・教育機関・職域においてもニーズの把握の難しさを感じている。
・スクールカウンセラーを配置していたが、直接相談に来ることが少なかったためQRコードによる申込制にしたところ申込者が増えた。匿名性というのが重要だと思う。
・相談を待つだけでなく、気になる子がいると教職員からカウンセリングを促すようにしている。
・今後の取り組みとして、精神的な不調を抱えている人は自分自身がどういう状態か理解できない人も多いのではと思う。どのような症状があったら相談すべきかというのを講演などで啓発することが大事だと思う。
③グループ
・大学でも相談件数が増えており、医療機関でも学生の受診が増えている。
・受診する人のなかには薬で治るというだけのものではなく、家族や経済的な問題があることも多い。
・働く人の健康は企業にとっても生産性が上がるメリットがある。健康経営に取り組む企業も増えている。職場環境を良くすることで自殺対策につながる。
・8050問題など複合的な課題も増えてきている実感がある。

（4）令和8年度　保健課事業計画（別紙資料 P41）

・普及啓発では市内小学4・5・6年生全員に相談先を掲載したクリアファイルを配布

・例年実施していたゲートキーパー養成講座を市民向けの開催に加え、市職員向けにe-ラーニングによる全職員の受講を促し実施する。

（5）その他

恵庭市自殺対策ネットワーク会議は今年度は1回の開催。次回は来年度、概ね同時期に開催予定。

全体を通しての質問等なし。